



事務局

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル2F

財団法人 河川環境管理財団内 全国水環境マップ実行委員会事務局

TEL : 03-5847-8303 FAX : 03-5847-8309

連絡事務局

みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町3-23-2

TEL/FAX:042-327-3169 E-mail:mizutomidoriken@ybb.ne.jp

平成18年2月発行

身近な水環境の 全国一斉調査

●● 未来に残そうあなたの水辺 ●●

調査結果概要

2005

目次

I	調査の背景	P. 1
II	調査の実施手法	P. 2
III	調査結果の概要	P. 4
IV	各ブロックでの調査結果	P. 7
	北海道地方	P. 7
	東北地方	P. 8
	北陸地方	P. 9
	関東地方	P. 10
	中部地方	P. 11
	近畿地方	P. 12
	中国地方	P. 13
	四国地方	P. 14
	九州地方	P. 15
	沖縄地方	P. 16
V	身近な水環境を調べよう！ 第3回「身近な水環境の全国一斉調査」へ参加のお願い	P. 17
VI	全国水環境マップ実行委員会名簿	P. 17
	第3回「身近な水環境の全国一斉調査」参加申込書	P. 18



I 調査の背景

近年、河川や水辺など身近な水環境の保全や修復に関する市民の意識が高まっています。市民や学校の子どもたちによる身近な川の一斉調査は1980年代の半ばから、多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきました。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていません。このような多くの結果を有効に利用するためには統一的な調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要です。

多くの市民や学校の子どもたちが統一的な調査マニュアルにもとづき、身近な水環境を全国一斉に調査し、その結果をわかりやすいマップで表現することにより、全国の状況が一目でわかり、身の回りの水環境に関する市民の理解と関心がさらに深まることが期待されます。そのため全国で水質調査を実践している市民団体等が国土交通省及び（財）河川環境管理財団と連携して、全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、全国の水環境マップを作成することにしました。

「身近な水環境の全国一斉調査」により多くの河川をはじめとする水辺の様子や水質などの現状が把握できます。一斉調査は当日の天候にも影響されますが、さらに継続して実施することにより水環境の変化やその原因などが明らかになります。市民が自ら水質を調査し、水環境の実態を明らかにすることにより、その保全と修復に関する今後の活動へ発展することが期待されます。

「第1回 身近な水環境の全国一斉調査」は、2004年6月6日を中心として全国の2,545地点で調査が実施されました。今回の「第2回 身近な水環境の全国一斉調査」においては、2005年6月5日を中心として昨年度の約2倍となる5,018地点で調査が実施され、この活動の広まりが実感されることとなりました。

目的と意義

- ① 身近な水環境を簡単な方法を用い自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
- ② 統一的なマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
- ③ 身近な水環境の調査結果をすぐに知ることができる。また、全国の結果も速報値として数か月後に知ることができる。
- ④ 河川などの流域で、多くの人たちが調査に参加することにより、面的につながりのある結果が得られる。
- ⑤ 調査した身近な水環境と他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
- ⑥ 身近な水環境を流域、さらに広域の環境へ結びつけ、水環境の保全を考えるきっかけとなる。
- ⑦ 水の汚れの原因を調べ、考えるきっかけとなる。
- ⑧ 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
- ⑨ 調査に関わった多くの人たちと連携の意識をもつことができる。
- ⑩ 子どもたちが調査に参加することにより、将来に活動を引き継ぐことができる。



II 調査の実施手法

調査の概要

調査日：平成17年6月5日(日)を中心に実施

調査者：『全国水環境マップ実行委員会（委員長：東京農工大学名誉教授 小倉紀雄氏）』
のもと、河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加

調査内容・方法：調査マニュアルに基づき、簡易器材でCODを測定

調査項目

気温・水温・試水水温

今回の一斉調査は現地の気温・水温・試水水温と三種類の記入欄を設けました。現地の気温と水温を記入することで、同日に行なった各地の気温と水温の分布を全国規模で把握することが出来ました。また、CODを簡易器材のパックテスト(※1)で測定するためには試水水温が重要な要素となります。試水水温を測定することで反応時間を把握し、より正確な測定を実施することができました。

COD（化学的酸素要求量）(※2)

水質汚濁の指標の一つとして用いられます。今回の一斉調査では同一のロット番号（製造番号）のパックテストを用いました。また、同一試料を三回測定し、それらの中央値を採用することでより正確な測定を実施することができました。

また、第2回の実施ではオプションとしてCOD(D)値が8mgO/L以上であった場合を考慮し、任意で追加測定できるようにパックテストCOD(0-100)と希釈による方法を紹介しました。

※1 パックテストは、株式会社 共立理化学研究所の登録商標です。

※2 パックテストの化学的酸素要求量(低濃度)を(COD(D))と表現することとしています。

調査の手法

採水

- ① 雨天や増水などによる調査の中止も考慮し、これまでに調査を継続してきた地点や新たに調査してみたい地点を決定します。調査地点を調査票(P3-図1)に記入します。
- ② より正確なデータ測定のため、水質の時間変化を考慮し採水時間は午前中に行ないます。
- ③ 試水を入れる容器は予め良く洗って乾かし、採水地点名・記号・採水日時を明記しておきます。
・ 採水器具や試水を入れる容器は、採水を行う川の水で十分に共洗いします。
- ④ 浅く流れが穏やかな川では、川に入り川の中央で上流に向かって採水し、深い川や流れの速い川では、橋などの上からロープをつけたバケツを下ろし採水します。舞い上げられたゴミなどが混入しないよう十分注意して行います。
- ⑤ 調査月日・調査時刻・天気とともに、採水地点の気温と採水した試水の水温を測定し調査票に記入します。

COD(D)値の測定

- ① 試水の水温を測定し反応時間を決定します。
- ② パックテストのラインを抜き取ります。パックテスト専用カップ(バックン)にスポイトで試水を目盛りまで入れます。(約1.5ml)パックテストの空気を抜き、試水を全て吸い上げます。4~5回ゆっくり振り①で決定した反応時間で測定を開始します。
- ③ 反応時間終了後ただちに標準色と比べ、測定値を調査票に記入します。
- ④ 同じ試水で3回測定します。

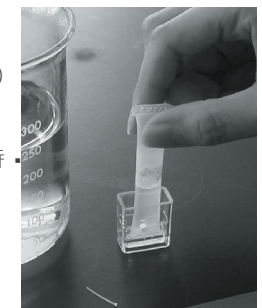


図1 第2回 調査票

身近な水環境の全国一斉調査 調査結果記入票 (2005年) 郵送先: 〒185-0021 東京都国分寺市南町 3-23-2 小松ビル3F みずとみどり研究会 全国水環境マップ実行委員会 Tel/Fax : 042-327-3169 E-mail : mizutomidoriken@ybb.ne.jp		No. / 合計	
・太枠内は記入必須			
調査者・調査地点情報			
調査グループ(個人)名			2004年参加
調査票記入者(責任者)名			有 無
連絡先	〒		
Tel:	Fax:		
E-mail:	HP:		
調査河川等の名称			
都道府県名	市区町村名		
調査地点名(定点) ※橋など分かりやすい名称を記入してください。 ※上記定点の住所と緯度・経度を記入してください。			
緯度・経度の検索方法	1.国土地理院のホームページ		2.その他()
調査結果			
採水月日・時刻	月 日 時 分	天候	晴・曇・雨
現地気温 (°C)	現地水温 (°C)	試水温 (測定時) (°C)	前日の天候
COD(D) (mgO/L)	原水 (1)	(2)	(3)
・以下の欄の記入は必須ではありません COD8mgO/L以上の場合 オプション操作の選択 希釈法 ・ バックテスト COD(0-100) (1) (2) (3)			
任意調査項目	COD以外に調査された項目をチェックしてください pH・電気伝導度・透視度・アンモニア態窒素・亜硝酸態窒素・硝酸態窒素・リン酸態リン その他調査された項目をご記入下さい 生き物		
特記事項(水辺の状況・流れ・濁りなど)			
意見欄			
※調査結果については公表することを前提としています。 ※本記入票に記入いただいた調査者の個人情報は本調査の目的以外に使用することはありません。 ▲ご協力ありがとうございました。			

調査結果の概要

47都道府県全てで調査が実施され、参加人数・参加地点ともおよそ2倍に

第2回全国一斉調査は、47都道府県全てで実施され、小笠原、屋久島や西表島などの離島でも実施されるなど、全国各地に調査地点があります。また、第1回の全国一斉調査をきっかけに水環境に関心を持った人々が、さらに地域住民に声をかけて大幅に調査地点が増えた地域もあります。

調査実施日・調査地点数

全国統一日に実施された調査

調査日・ 2005年6月5日(日)
 参加団体数・ 595 団体 (個人)
 調査地点数・ 3,288 地点

海外で実施された調査

中国・ 調査地点数 63 地点(集計中)
 チェコ共和国・ 調査地点数 2 地点

国内で実施された全ての調査

期間・ 2005年5月1日～8月31日まで
 参加団体数・ 1,000 団体 [参考:第1回 531団体]
 調査地点総数・ 5,018 地点 [参考:第1回 2,545 地点]

調査のまとめ

市民と行政の連携で始まった、この「身近な水環境の全国一斉調査」が、第1回調査結果の約2倍の規模に広まったことから、「身近な水環境の全国一斉調査」をきっかけに市民の身近な水環境に対する関心が高まっているものと思われます。また、既に各地で活動を行っているグループ同士の連携や川を自分たちの地域のみ限定せず上流から下流までを考えて活動するようになるなど面的な広がりがみられました。

第2回の調査は、全国各地にある『こどもエコクラブ』（環境省支援の団体）の参加で子どもたちの参加も増えています。

この調査を今後も継続することにより、市民の水環境に対する理解と関心、流域の連携などがさらに深まることが期待されます。

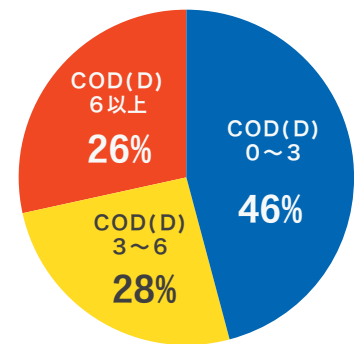
全国水環境マップと地方ごとの詳細マップは全国水環境マップ実行委員会が作成し、各流域単位や河川単位でのマップ作成に関しては調査団体の承認のもと、各地域で独自に作成されています。



2005 全国水環境マップ

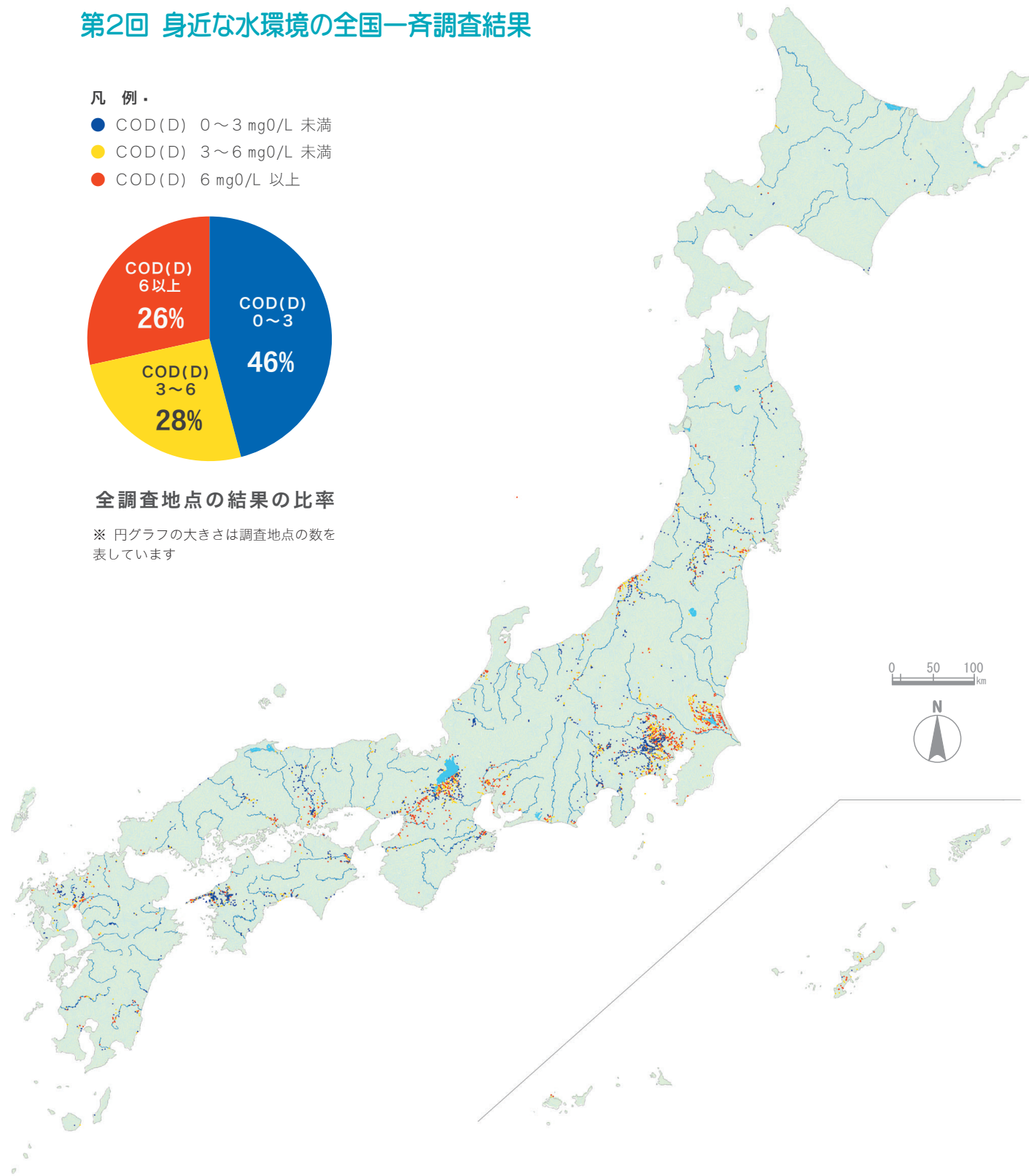
第2回 身近な水環境の全国一斉調査結果

- 凡例・
- COD(D) 0～3 mg0/L 未満
 - COD(D) 3～6 mg0/L 未満
 - COD(D) 6 mg0/L 以上



全調査地点の結果の比率

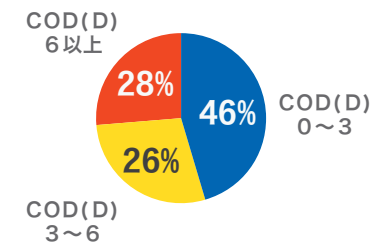
※ 円グラフの大きさは調査地点の数を表しています



2004 全国水環境マップ

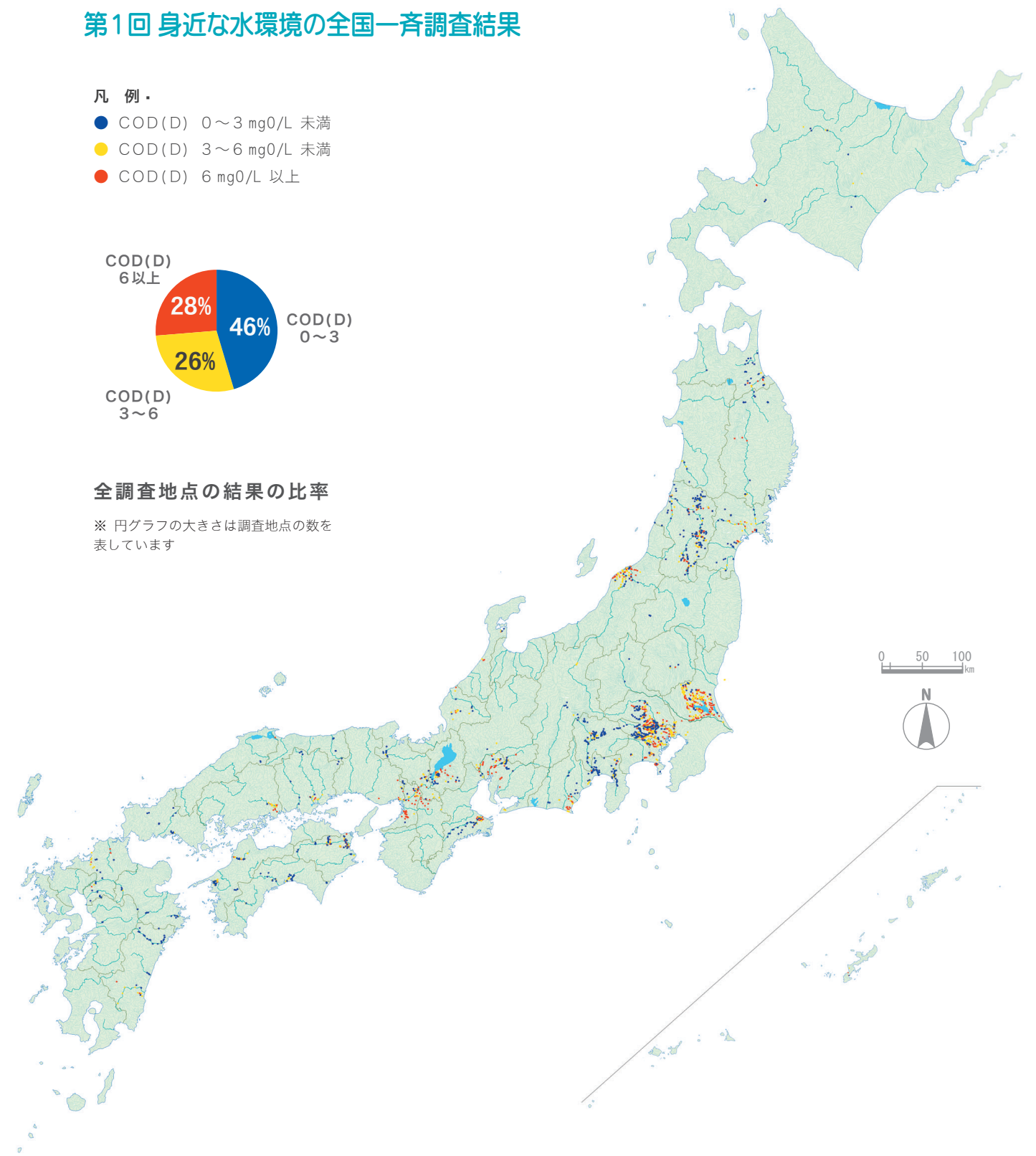
第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果

- 凡例・
- COD(D) 0～3 mg0/L 未満
 - COD(D) 3～6 mg0/L 未満
 - COD(D) 6 mg0/L 以上



全調査地点の結果の比率

※ 円グラフの大きさは調査地点の数を表しています



※ このマップは、平成17年6月5日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

※ このマップは、平成16年6月6日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

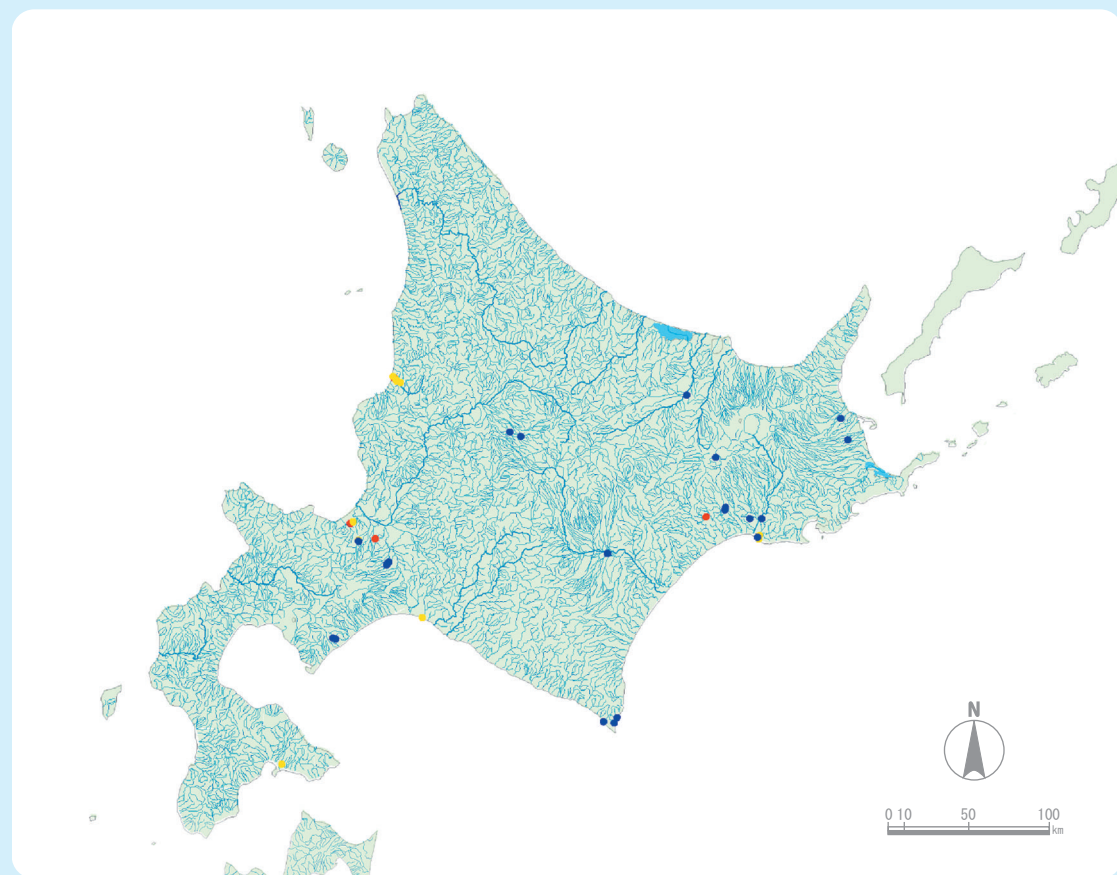
IV 各ブロックでの調査結果

北海道地方

実行委員のコメント

野村 直也 NPO法人 十勝多自然ネット

2004年に26だった調査地点は2005年には48に増えました。北海道では6月に小中学校の運動会が行われることを考えると、健闘しているといえるのではないのでしょうか。しかし、48地点も大きな北海道の中で見ると少々さびしいものがあります。2006年にはもっと多くの方が参加して調査地点数が増えることを願っています。



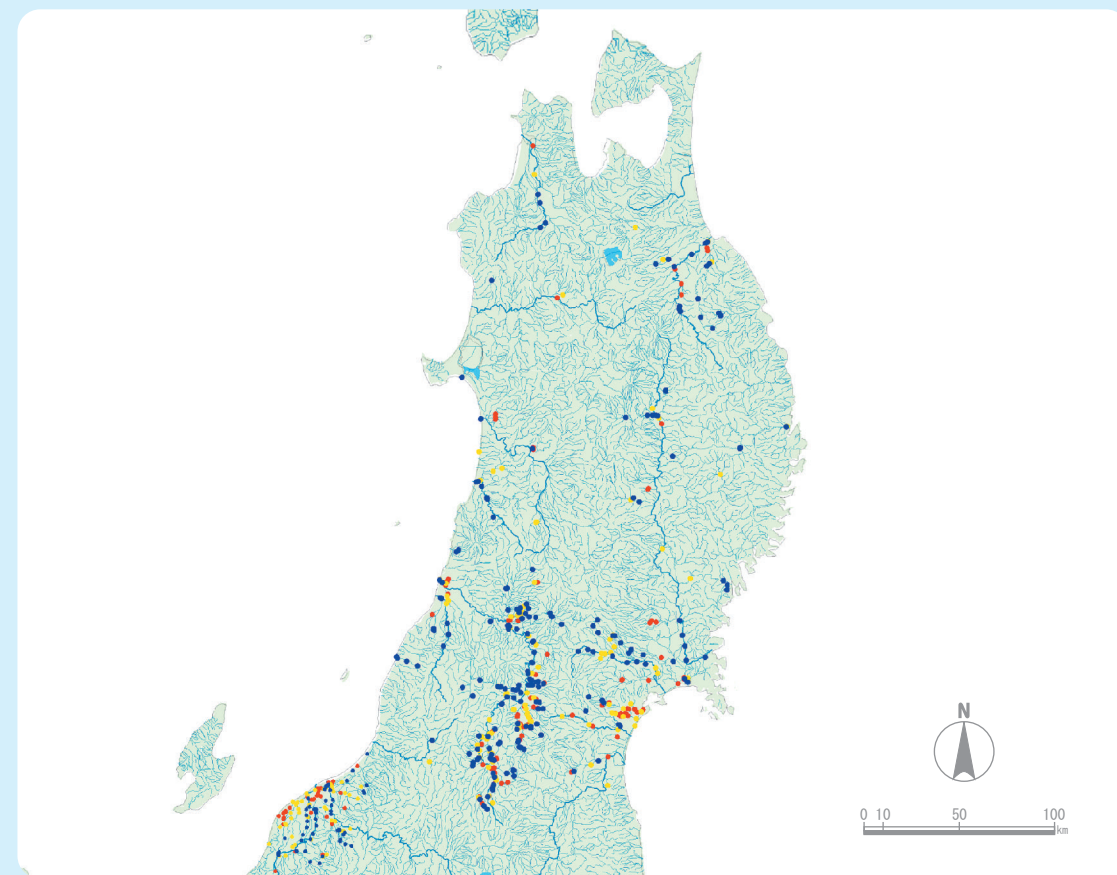
- 凡例・
- COD(D)・0～3 mgO/L 未満
 - COD(D)・3～6 mgO/L 未満
 - COD(D)・6 mgO/L 以上

東北地方

実行委員のコメント

金子 博 NPO法人 環境協働組織・グラウンドワーク庄内

山形での調査実績に大きな変化はないが、第2回目にして全国での実施箇所数が倍増する中、水辺のゴミについて意見を寄せてきたところも少なくない。山形・最上川流域で開発した「水辺の散乱ゴミの指標評価」手法が、近い将来、全国水環境マップ実行委員会の取組みに組み込まれ、海洋も含めた水環境の保全が推進されていくことを期待したい。



※ これらのマップは、平成17年6月5日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

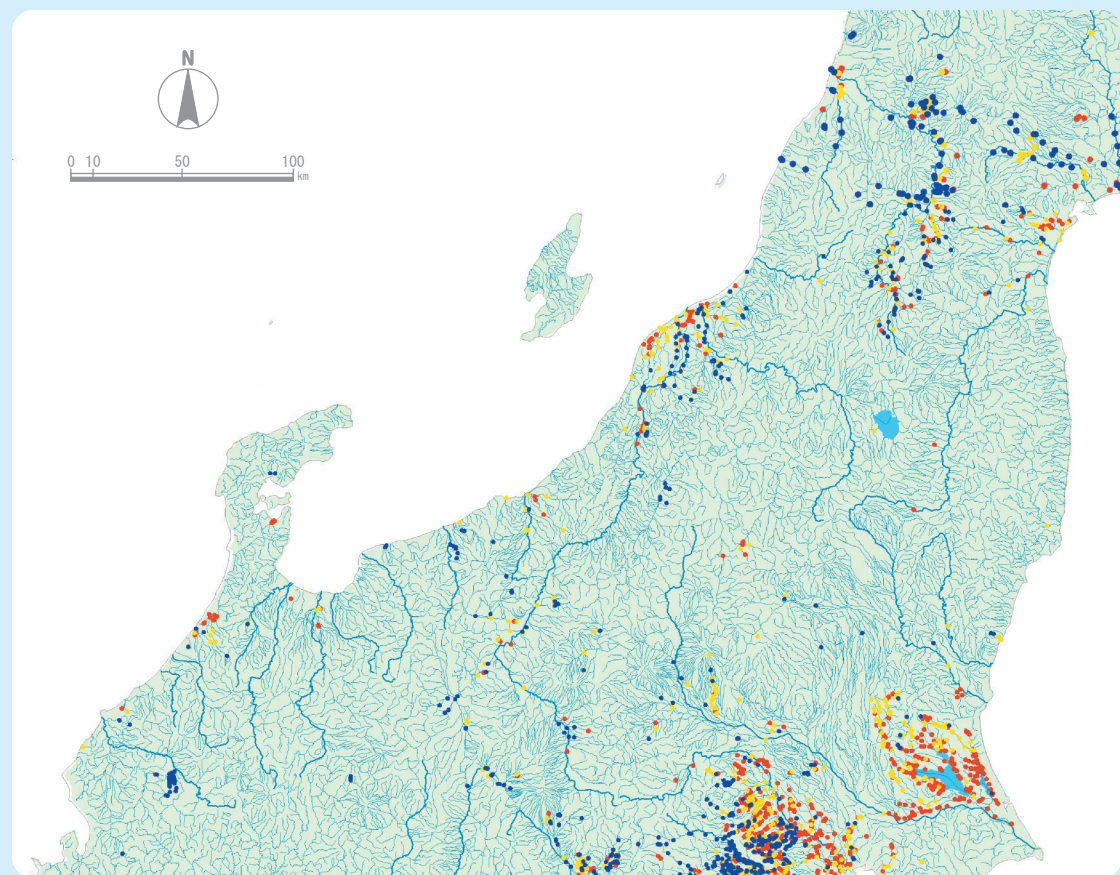
- 凡例・ ● COD(D)・ 0～3 mgO/L 未満
 ・ ● COD(D)・ 3～6 mgO/L 未満
 ・ ● COD(D)・ 6 mgO/L 以上

北陸地方

実行委員のコメント

加藤 功 NPO法人 新潟水辺の会

昨年新潟県は、5グループ40名で新潟市周辺9河川7湖沼の85ヶ所の水質調査を行いました。今年は、1企業、19団体、6個人、493名の参加者の輪が出来上がり、新潟県内61河川12湖沼の177ヶ所の調査に広がりを見せました。来年はこの輪を更に一般市民や子供たちに広げつつ測定精度を高め、県北と佐渡島の水質調査を行いたいと考えています。

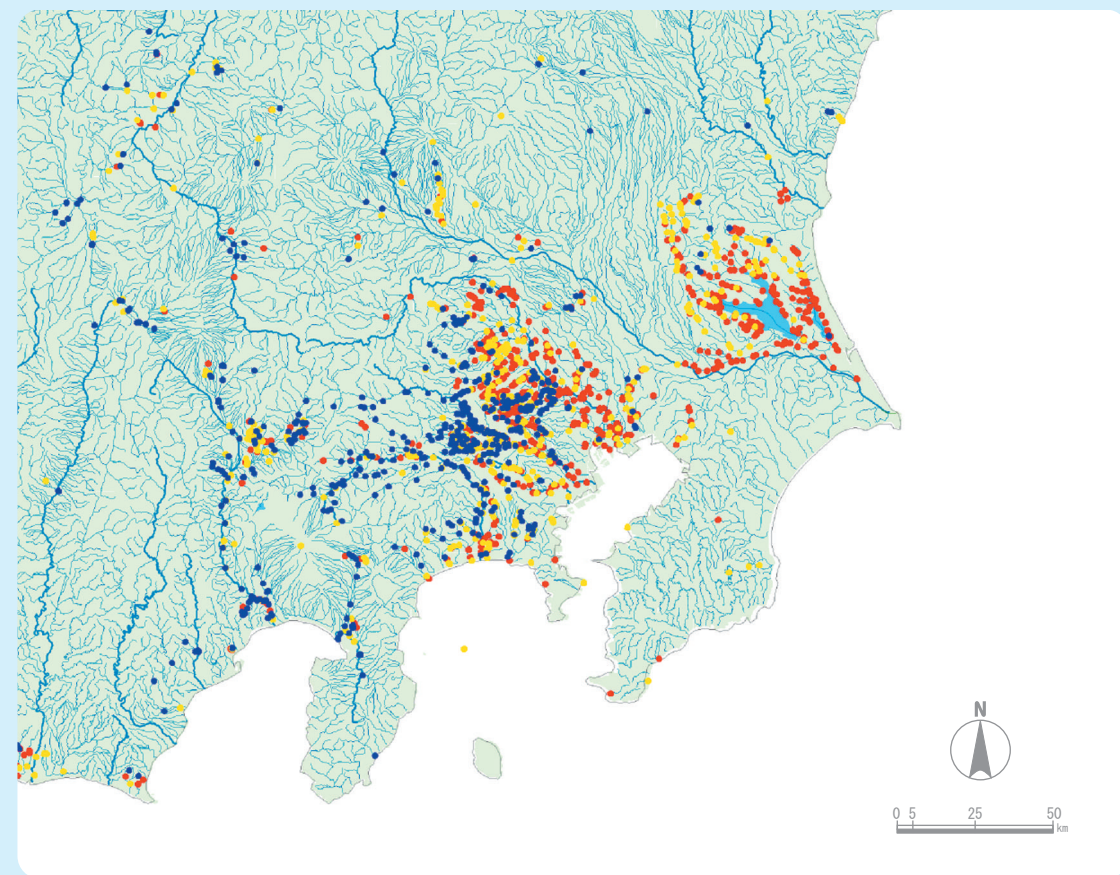


関東地方

実行委員のコメント

沼澤 篤 社団法人 霞ヶ浦市民協会

昨年に続き、霞ヶ浦の全流入河川56本を、市町村ごとに住民参加で調査しました。基本的には、各河川の水質は、昨年同様の傾向が見られました。また、霞ヶ浦流域では秋季にも同様の調査を実施してきましたが、その結果ともほぼ一致しており、簡易法の精度がかなり高いことがわかりました。一斉調査への参加は、一般市民や子どもたちが身近な水環境に関心を持ち、科学的に考える契機として意義深いと思います。



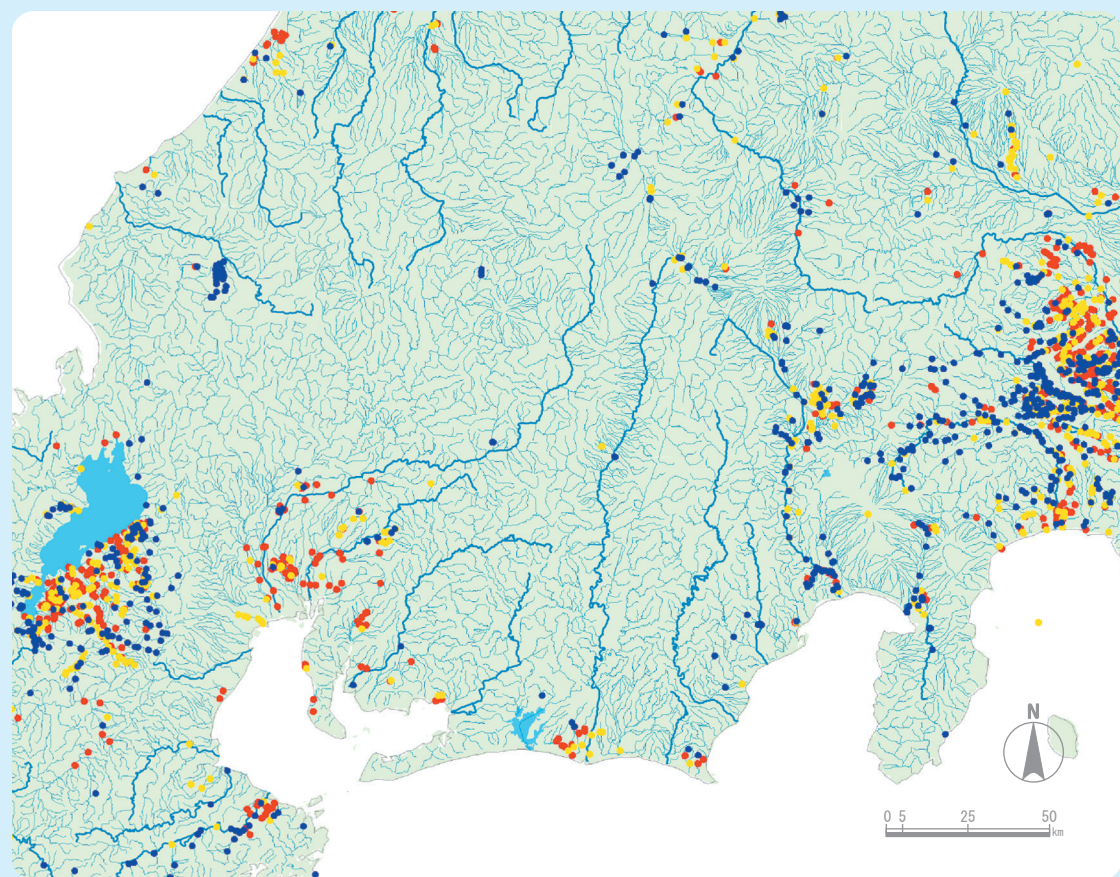
※ これらのマップは、平成17年6月5日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

中部地方

実行委員のコメント

沖野 外輝夫 諏訪環境まちづくり懇談会

長野県の主要河川は太平洋側の天竜川と木曾川、日本海側の千曲川の三水系です。2004年度は天竜川水系のみでしたが、2005年度は千曲川水系での参加がありました。参加者は19団体、測定は68地点でした。各地点の水質は比較的良好です。長野県は南北に長く、連絡の取りにくい地理的条件があり、参加者相互の意思の疎通が無かったことは反省点の一つです。また、木曾川上流部の参加も今後の課題として残されています。

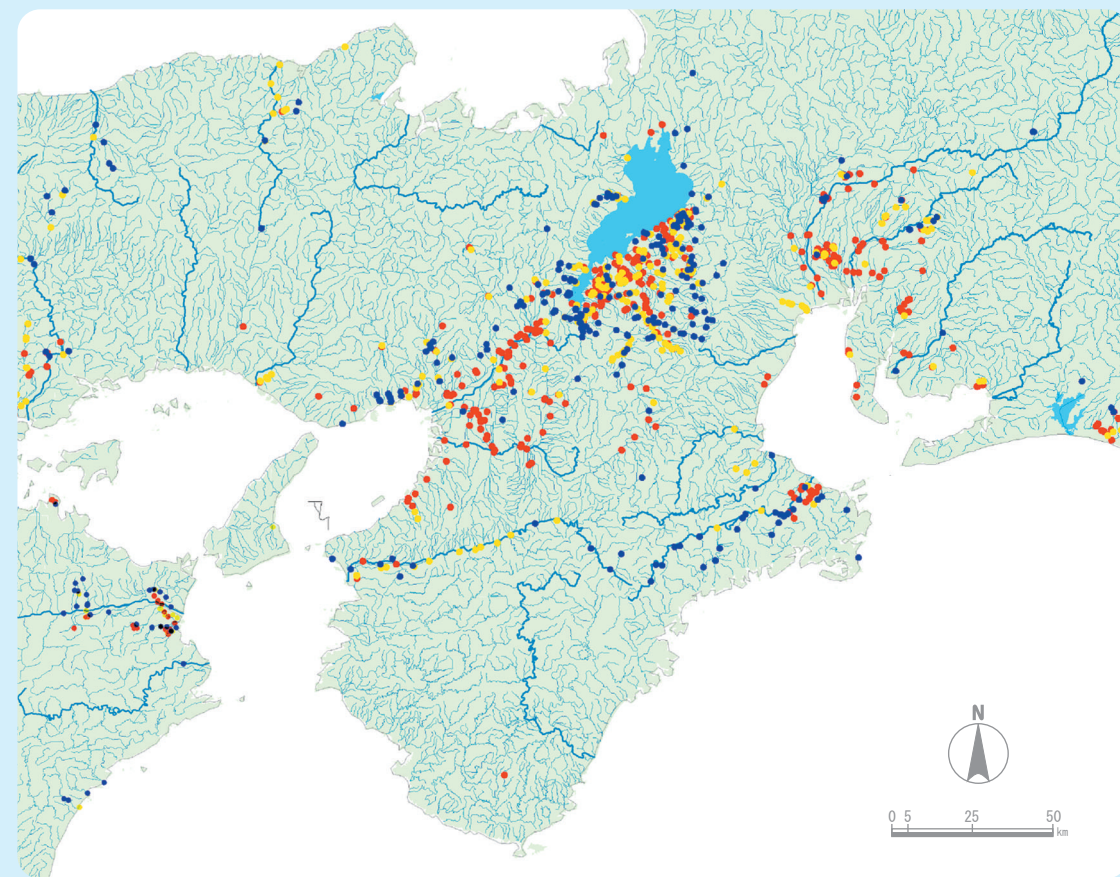


近畿地方

実行委員のコメント

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

当機構では、水環境を考え直す時間づくりを目指した「WAQU²(わくわく)調査隊」を結成し、琵琶湖・淀川流域を対象に、隊員約180名が参加して定期的に水質調査を行っています。隊員からは「見た目以上に水質が悪かった」、「魚や植物がたくさん見つけられた」等の多くの反響が寄せられており、この調査を通じて市民の身近な河川への関心が高まってきているものと実感しています。



※ これらのマップは、平成17年6月5日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

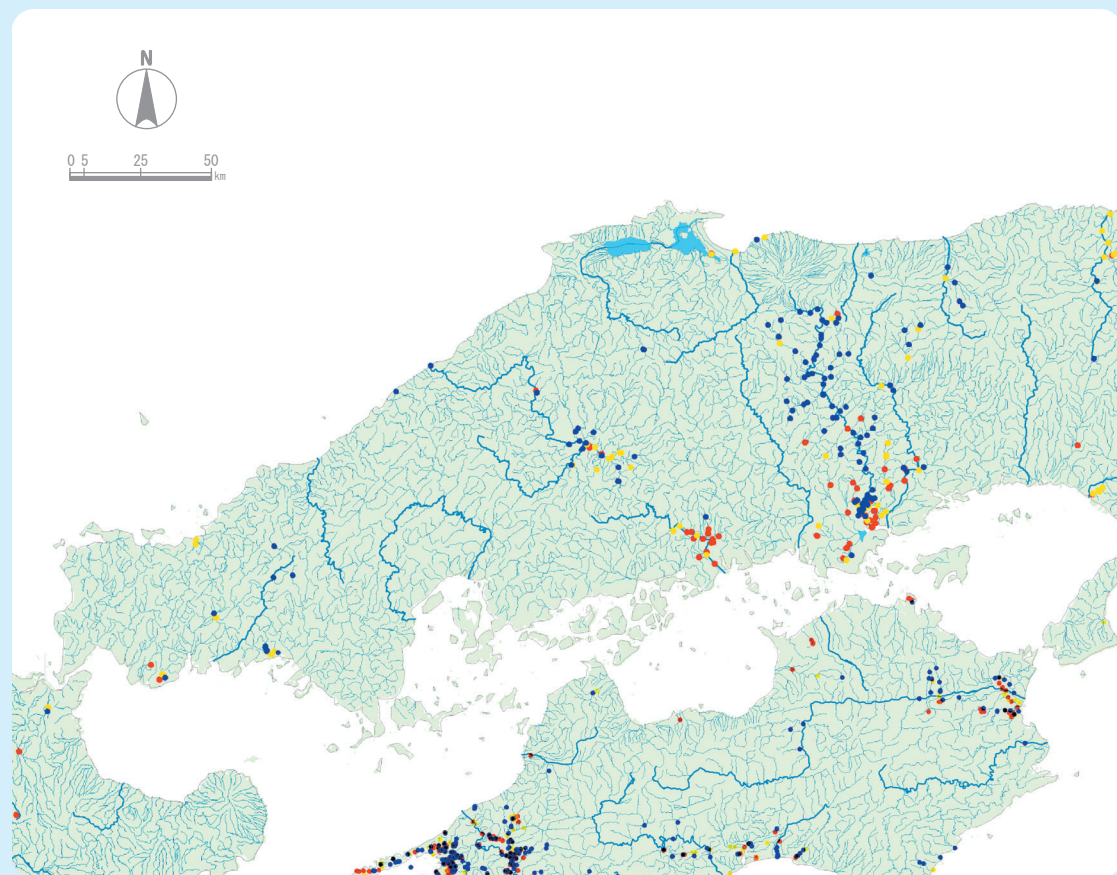
- 凡例
- COD(D)・0～3 mgO/L 未満
 - COD(D)・3～6 mgO/L 未満
 - COD(D)・6 mgO/L 以上

中国地方

実行委員のコメント

池田 満之 旭川流域ネットワーク

調査地点の増加により、中国5県のCODに見る水質状況がよりはっきりしてきました。昨年同様、山間部に比べて下流平野部の都市域あたりのCODが高い傾向にあります。人為的な活動が、河川環境に過剰な負荷を与えているように思えます。なお、子ども達は、水質と一緒に生き物調査もした方がより興味を示すようでした。

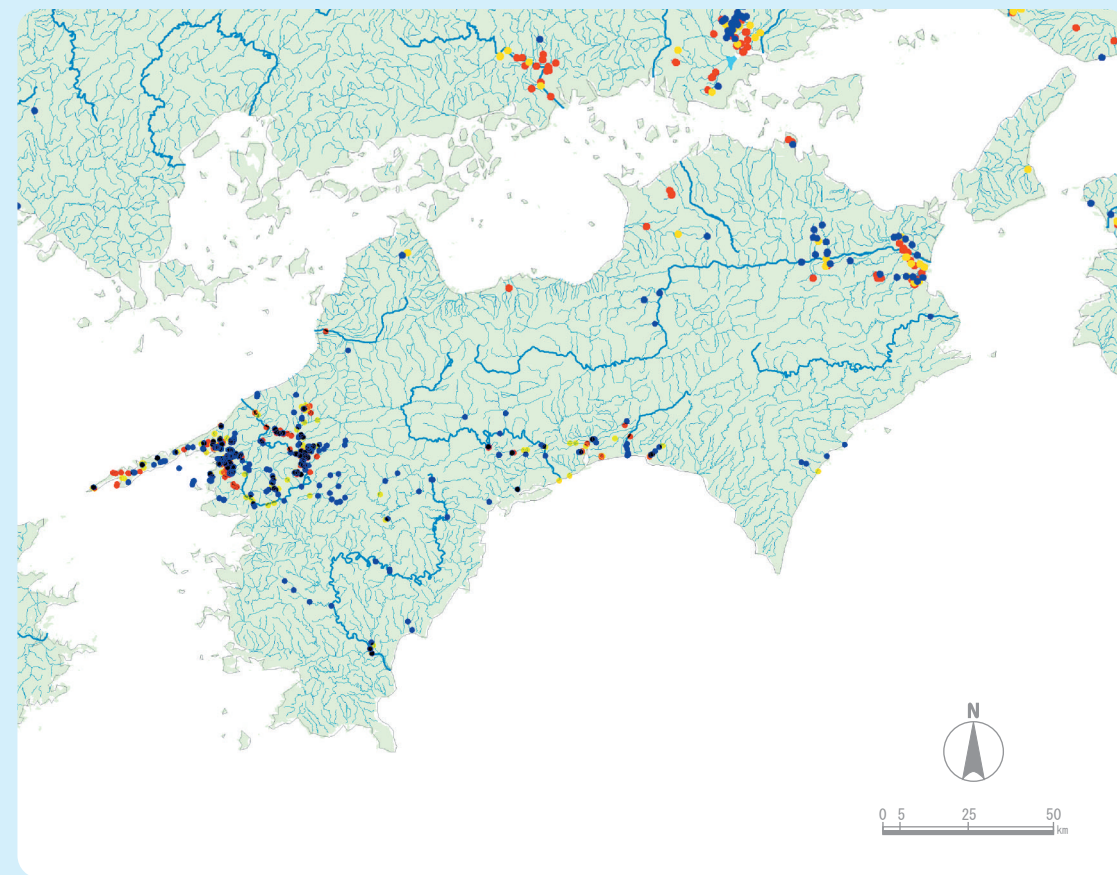


四国地方

実行委員のコメント

生野 宣宏 NPO法人 仁淀川お宝探偵団

今年はあちこちに声掛けをして、昨年の2倍くらいの参加団体が得られました。現地採水現地調査で行っていますが、調査地点が5・6ポイントで人数が10人程度までなら、手分けせず、そろそろと調査ツアーにした方が面白いかもしれません。今回の6ポイントは前回に引き続いたものですが、今後も定点として続けるつもりです。子供の参加を増やさなくてはと、次回こそは学校を巻き込もうと企んでいます。流域を元気にする鍵は、子供と食べ物です。



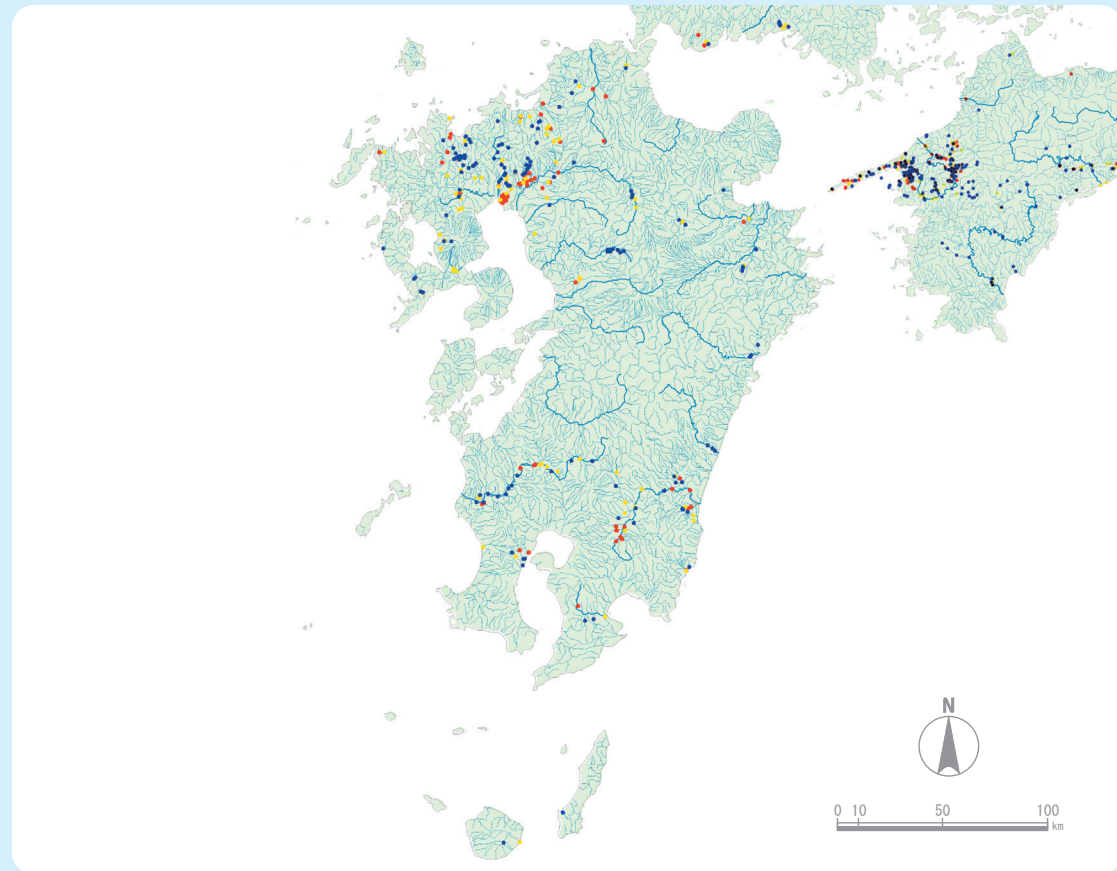
※ これらのマップは、平成17年6月5日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

九州地方

実行委員のコメント

大西 正國 NPO法人 大淀川流域ネットワーク

今年度一番の収穫は、九州地方の全県が水質調査に参加した事であろう。大淀川流域においても、JA宮崎県経済連畜産部の協力や宮崎県から新たな水環境指標創設の依頼があったことなど、官財民が一体となり本来あるべき清流を取り戻そうという行動を起こし始めました。今後の課題は、人材の発掘を進めていく事だと思います。

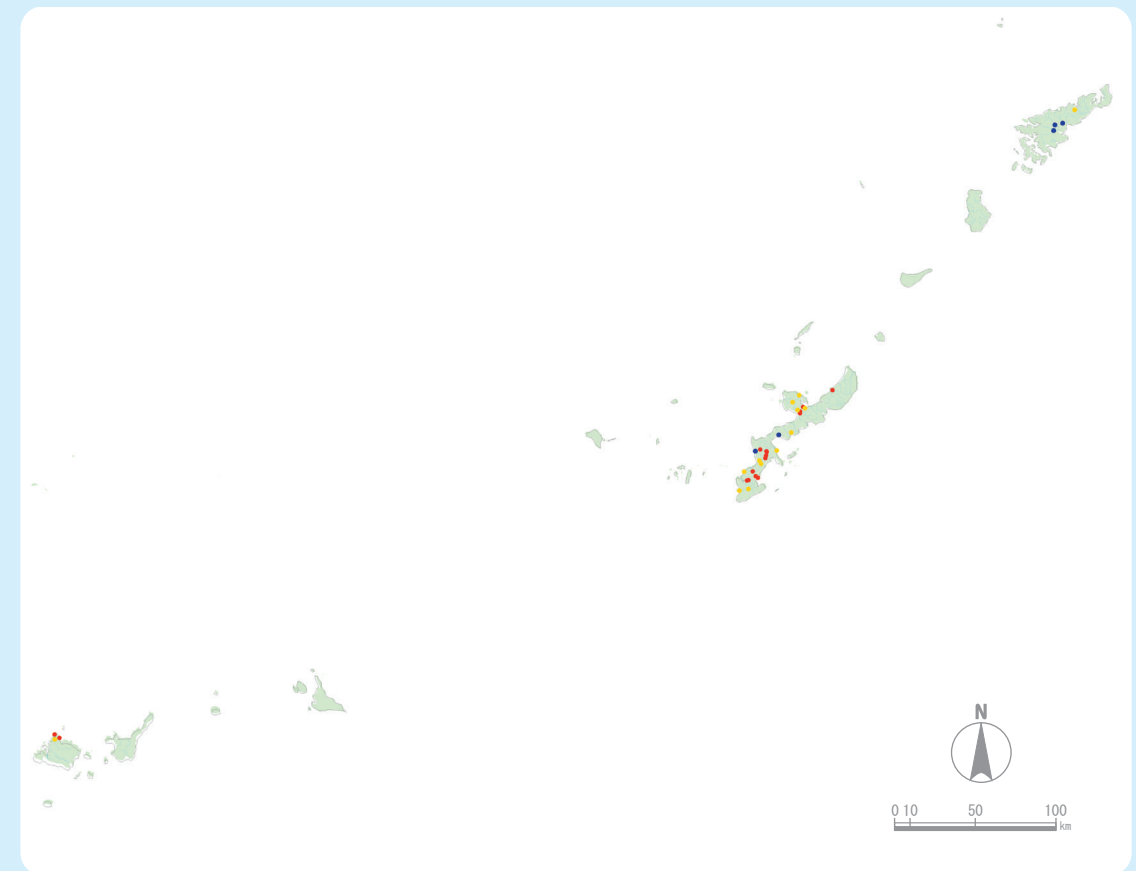


沖縄地方

実行委員のコメント

小野 朋典 NPO法人 リュウキュウアユを蘇生させる会

沖縄での観測地点は昨年比、大幅に増加！多くの方々に関心を持ってもらえるようになりつつあります。年1回の調査にとどまらず、本一斉調査をきっかけにして、沖縄でも水環境に関心のある方々のネットワーク化が進むことを期待しております。それともう一つ「全国一斉調査、沖縄の全ての離島で実施！！」となるようにがんばっていきます。



- 凡例・
- COD(D)・0～3 mgO/L 未満
 - COD(D)・3～6 mgO/L 未満
 - COD(D)・6 mgO/L 以上

※ これらのマップは、平成17年6月5日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

身近な水環境を調べよう! 第3回「身近な水環境の全国一斉調査」へ参加のお誘い

小倉 紀雄 全国水環境マップ実行委員会 委員長

日頃、親しんでいる身近な水環境は簡単な方法で調べることができます。

調査は、統一した調査マニュアルと簡単な調査器材を用い、全国で一斉に行います。調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が良くわかります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が一層、高まることが期待されます。第2回の実施結果は、参加団体・調査地点数ともに第1回の約2倍となり、参加者数も約8,000人を超え、ますます市民の環境に対する関心の高まりを実感いたしました。

また、47都道府県全てで調査が実施され、まさに文字通りの「全国一斉調査」となりました。さらに小笠原諸島や屋久島、奄美大島などでも実施されています。

第3回「身近な水環境の全国一斉調査」は下記の要領で実施されます。多くの皆さまの参加を期待しています!

- 日時・ 2006年6月4日(日) 世界環境デー(環境の日)に近い日曜日
- 測定項目・ 気温、水温、COD、その他
- 測定方法・ 調査マニュアル、調査キットに基づき測定 ※参加申込者に2006年5月頃に配布予定
- 応募締切・ P.18の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の連絡事務局(みずとみどり研究会)に、2006年2月28日までにご送付下さい。
- 申込・お問合先・ 事務局 全国水環境マップ実行委員会事務局(問合せのみ)
 - 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 財団法人 河川環境管理財団内
 - TEL: 03-5847-8303 FAX: 03-5847-8309
 - 連絡事務局 みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)
 - 〒185-0021 東京都国分寺市南町3-23-2 小松ビル3階
 - TEL/FAX: 042-327-3169 E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp

全国水環境マップ実行委員会名簿

実行委員長

小倉 紀雄・みずとみどり研究会・東京都

実行委員

野村 直也・NPO法人 十勝多自然ネット・北海道
金子 博・NPO法人 グラウンドワーク庄内・山形県
沼澤 篤・社団法人 霞ヶ浦市民協会・茨城県
後藤真太郎・NPO法人 荒川流域ネットワーク・埼玉県
丹野 忠弘・新河岸川水系水環境連絡会・埼玉県
倉 宗司・身近な川の一斉調査実行委員会・東京都
石田 幸彦・浅川流域市民フォーラム・東京都
佐藤 正兵・NPO法人 荒川クリーンエイドフォーラム・東京都
加藤 功・NPO法人 新潟水辺の会・新潟県
風間ふたば・Yamanashiみずねっと・山梨県
沖野外輝夫・諏訪環境まちづくり懇談会・長野県
北田 俊夫・NPO法人 びわこ豊稷の郷・滋賀県
山崎 久勝・NPO法人 蒲生野考現倶楽部・滋賀県
森本 泰之・(財)琵琶湖・淀川水質保全機構・大阪府
池田 満之・旭川流域ネットワーク・岡山県
生野 宣宏・NPO法人 仁淀川お宝探偵団・高知県
大西 正國・NPO法人 大淀川流域ネットワーク・宮崎県
小野 朋典・リュウキュウアユを蘇生させる会・沖縄県

事務局

高橋 克彦・AMR
菅谷 輝美・東久留米ほとけどじょうを守る会
本間 君枝・みずとみどり研究会
梅本 誠子・東京農工大学
佐山 公一・みずとみどり研究会
岡下 淳・国土交通省 河川局
小岩 真之・国土交通省 河川局
鈴木 茂樹・財団法人 河川環境管理財団
矢野 克己・財団法人 河川環境管理財団
中山 尚・財団法人 河川環境管理財団

アドバイザー

岡内 完治・(株)共立理化学研究所
今田 陽子・(株)共立理化学研究所
星野 順子・みずとみどり研究会

オブザーバー

小堀 洋美・武蔵工業大学
羽生田麻衣・NPO法人 多摩川センター
伊藤 浩子・NPO法人 荒川クリーンエイドフォーラム

FAX: 042-327-3169 E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp

第3回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙

注意事項をよくお読みの上必要事項を記入し、2月28日まで必ずFAXまたはE-mailでお知らせ下さい

これまでに全国一斉調査に参加したことはありますか・ 2004年 2005年 初めて

参加グループ名(※1)

変更前のグループ名(※2)

参加グループの連絡責任者(※3)

参加グループの連絡責任者の連絡先(※4)

住 所: 〒

電 話: - - . FAX: - -

E-mail: @

調査予定地点名(※5)

河川以外の水路・水辺等で行う調査地点・ ない ある

河川以外の水路・水辺(農業用水路、ため池等)で行う調査地点がある場合には、原則として水路・水辺等の管理者や所有者の許可を得ることが必要となります。詳細については、事務局より後日、連絡させていただきます。(後日発送の詳細マニュアルの注意事項を参照してください。)

調査予定日・ 6月4日(日)に実施する・ 6月4日(日)に実施できない【その場合の予定・ 月 日】

(注:調査結果の返送は、6月末日が締め切りです。)

調査予定地点数 地点

今後の連絡手段・ FAX 郵便物など 電話

今後のご連絡についてはEメールで行わせていただきます。もしも、Eメールをお使いでない方は、ご希望の連絡手段をチェックして下さい。

過去に全国一斉調査を実施された方へ

昨年と同一調査地点ですか・ はい いいえ 違う地点もある(調査地点の追加)

過去に参加された方は調査地点を事務局で管理しています。同一であれば調査結果の記入欄に調査地点の情報をご記入していただくなくても結構です。こちらから後日お送りする地点記号をお書き下さい。

ご意見

注意事項

- ※1 個人で参加される方は、氏名をお書き下さい。
- ※2 以前の全国一斉調査に参加された方でグループ名の変更がある場合には昨年の登録名もお書き下さい。団体名が異なると経年データとして結果が反映されません。
- ※3 個人参加の場合はご記入の必要はありません。
- ※4 グループの場合は連絡責任者の連絡先、個人の場合はご自宅など。特にE-mailアドレスははっきりとお書き下さい。
- ※5 河川名など 例:○○県 ○○川、××用水路、△△池。